市文化スポーツ栄誉賞

人間国宝認定の豊竹嶋大夫氏に授与

本市出身の人形浄瑠璃文楽太夫で、国から重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された豊竹嶋大夫氏に市文化スポーツ栄誉賞の受賞が決まり10月23日、東京都で野志市長から表彰状が贈られました。

豊竹嶋大夫さんは北条地区の出身で昭和23年、15歳のとき人形浄瑠璃文楽の世界へ。長年に渡る積極的な舞台活動と後進の育成・指導など文楽の振興に貢献され、10月1日、人間国宝に認定されました。

表彰状授与後の懇談で野志市長は「松山の宝であり、北条地域の皆さんが大変喜んでいる」と話すと、豊竹嶋大夫さんは故郷北条の思い出話をしながら喜んでいました。

問 文化・ことば課☎948-6634・FAX934-1287

野志市長（右）から表彰された豊竹嶋大夫さん

人形浄瑠璃文楽

太夫、三味線、人形が一体となった総合芸術で、ユネスコの無形文化遺産。太夫は舞台の中心として、声の抑揚や緩急で進行、登場人物の心理、周囲の雰囲気を表現していく。

重圧と責任を背負い、伝統文化を守り抜く

授与式終了後、豊竹嶋大夫さんにお聞きしました。

受賞の感想は

故郷からの表彰は格別。特に、北条地区の友人たちが喜んでくれたことがうれしい。故郷のことは決して忘れたことはありません。

文楽の世界を目指したきっかけ

両親がアマチュアで浄瑠璃をやっていました。北条には文楽出身の方が住んでおり、当時盛んに浄瑠璃が行われていました。15歳の時、北条に来た人気太夫の語りを聞き、これまでやってきた浄瑠璃とあまりに違い、本場大阪の文楽に行こうと決心しました。

文楽人生を振り返って

覚悟はしていましたが、「つらい」の一言でした。一回の舞台で12役、それを約1時間15分行うこともあるので、体力的にもきつく、1舞台につき食事1食分は消耗します。もう一つは、長年受け継がれた形を崩さずにお客様に伝えなければならないというところ。文楽は唯一、常（じょう）打ち（うち）で浄瑠璃を行う義太夫の本家。近松門左衛門をはじめ400年で築いた伝統を崩してはならないというプレッシャーがありました。それでも続けられたのは、とにかく「好き」だったからだと思います。

引退を表明したが…

1月の大阪、2月の東京公演を最後と考えています。体力的に衰えるとどうしてもミスが出てしまうと思いますので、自分自身がいい状態で退くべきと考えました。これからは後進の指導に力を入れたいと思います。手本を見せながら門弟たちに伝統技術を伝えるのは、舞台以上のエネルギーが必要。それが私の大事な責任です。

生まれ変わっても義太夫語りをしたいですか？

いや、うどん屋をしたい。当時北条辻町にはおいしいうどん屋が2つあって、味を競っていました。煮干しのダシと柔らかい麺のノドゴシが忘れられません（笑）

インタビューに答える豊竹嶋大夫さん

マラソンで結ばれる友好の絆

市代表団、松山・平澤友好協会訪問団が平澤市訪問

10月16日～19日の4日間、松山市代表団と松山・平澤（ピョンテク）友好協会訪問団計29人が、友好都市である韓国・平澤市を訪問しました。今年2月に友好都市提携10周年を記念して平澤市代表団が来松、今回はその答礼として、同時期に開催された平澤市を代表するスポーツイベントである平澤港マラソン大会などに参加しました。

平澤港マラソン大会では、松山市から4人の市民ランナーが出場し、ハーフの女性の部で4位に入賞するなど、好成績を収めました。そして野志市長と孔在光（コンジェクァン）平澤市長が10キロを一緒に走るという2月の松山市での約束を果たし、平澤市民の声援を受けながらコースを駆け抜け、最後は2人で手を取り合ってゴールしました。会場では松山市と松山・平澤友好協会が観光PRブースを出展し、松山市に関するクイズやお手玉体験などで、来場した平澤市民の皆さんに松山市や日本を紹介しました。

このほか、平澤市の伝統芸能である平澤農楽（ピョンテクノンアク）や現在建設中の大規模産業団地を視察。今回の訪問を通して、マラソン交流をはじめ両市の友好を更に深めました。

問 観光・国際交流課☎948-6887・FAX943-9001

華々しくスタート

力走する孔市長（右から2人目）と野志市長

にぎわう松山市ブース

ベストの走りができた

新居田雅昭さん（右手白石）

当日は、絶好のコンディション、しかも走りやすいフラットなコースで、松山市から参加した4人のランナーはそれぞれベストの走りをすることができました。レース後は、平澤市マラソン連合会の皆さんとも交流し、来年2月の愛媛マラソンでの再会を約束しました。

俳句対局松山市長杯初代王者に松山代表・片野瑞木さん

笑いあり学びあり　俳都松山宣言2015

俳句対局の様子

俳都松山大使の夏井いつきさんを迎え、俳句と俳都松山の魅力を伝えるイベント「俳都松山宣言2015～十七音があなたを変える～」が10月31日、子規記念博物館で開催されました。

イベントは2部構成で、第1部の「出張プレバト!!笑って学ぶ、夏井いつきの添削教室」では、番組出演者がビデオレターで俳句を披露し、夏井いつきさんが生添削を行いました。

第2部の「俳句対局第1回松山市長杯」では東京、大阪のトーナメント戦優勝者と、松山代表として俳句対局第一、二回龍天王決定戦優勝者の片野瑞木さん、また俳句甲子園審査員長を務めた岸本尚毅さんが、初代王者の座をかけ対戦しました。準決勝を勝ち抜いた片野さんと岸本さんによる決勝戦は片野さんに軍配。表彰式で片野さんは「実は第1部の講評からヒントとなる言葉を探していました。客席の皆さんに感謝しています」と笑顔を見せました。

最後に夏井いつきさんが「私たちは松山で俳句を楽しむために努力していきます。今後さまざまなイベントを開催しますので、来て笑って俳句を楽しんでください」と締めくくりました。

問 文化・ことば課☎948-6952・FAX934-1287

夏井いつきさんの俳句添削